

# 麗気烈風

令和4年2月25日(金)

文責 村田和人

～ 教育は「共育」「協育」「強育」で ～

## ～ 【 自分を支える原動力 】 ～

公立高校後期試験2日目が終わりました。校長室で、今頃、3年生は一心不乱に試験問題と格闘しているのだろうと思いながら、全員無事に合格しますようにと祈っていました。

人間、嬉しかったことよりも辛かったことの方が記憶に残るようで、特に自分が高校入試を受けた時の情景は今でも鮮明に記憶に残っています。

受験番号496番。受験票を受け取った時は、「400名の定員で既に100名近くオーバーしている。

しかも4『死』9『苦』6『無』!とマイナスイメージの洪水で頭の中が支配されました。

受験当日は、先日の「麗気烈風」でお伝えしました

ように、「開き直り」の状態試験会場に向かうことができました。

入試1日目、1時間目は国語の試験。問題用紙が裏返しで配られます。どんな問題が出されているのか、一秒でも早く知りたくて、裏返しの問題用紙を凝視しますが、文字が羅列されているのが分かる程度で何と書いてあるか分かりません。

不安ばかりが募り、試験開始の合図を待つ静寂の時間が異様に長く感じられます。そのうち心臓の鼓動が激しくなり、自分でも緊張してきたのがよく分かりました。

「始め。」の合図で問題用紙、答案用紙を表にします。まずは受験番号(1, 2年生の皆さん、高校入試は解答用紙に〇〇中、〇〇〇〇なんて書きません。)を書こうと鉛筆を持ちます。

「496」と書こうとすると、情けないことに手が震え、最初の「4」が上手く書けず、消しゴムで消して書き直しました。こんなに緊張したのは生まれて初めてでした。

最初は漢字の問題でした。その中で「ひたす」を漢字で書きなさい、という問題があり、きっと慌てていたのでしょうか、私は「浸す」でなく「侵す」と書いてしまい、答案用紙が回収される時にそのミスに気づき、「一点損した!だめだ!」と落ち込みました。

1, 2年生の皆さん、高校入試とはこういうものです。それまでは決して感じる事のなかった「社会」とか「世間」とか、そんな世界があることを実感し、その得体のしれない漠然とした巨大なもの



が自分を受け入れてくれるかどうか試される、そんな「圧」を高校入試で感じました。

特に2年生の皆さん。文字通り1年後はあなたが勝負する番です。誰一人高校に受かりたくないと思っている人はいないと思います。

しかし、これに向けて正面から挑戦していこうとする生徒と、本能的に辛いことから目をそらし、目の前の楽しさ、嬉しさに心を奪われて、ズルズルと入試シーズンを迎えてしまう生徒に分かれています。おそらく100%の確率で。

どちらの生徒が幸せな人生を送ることができるかは分かりません。幸福とはその人の心のあり方によるもので、高校入試なんてそのほんの一かけらに過ぎないからです。

ただ自分なりにあのきつくて辛い高校入試を乗り越えられたという自信は、その後の大学入試、就職試験等に限らず、職場や社会で出会う困難に「どうにかなるのでは?」と思い、「何としなければならぬ。」というときのエネルギー源になっているのは間違いないと思います。

困難や苦勞が自分の姿を浮き彫りにし、その姿を自分で知ることができたら、それが自分を一生支えてくれる原動力になるのです。

「若い時の苦勞は買ってませよ。」と昔の人は言いました。本当にその通りだと思います。

## ～【 今回のテスト結果、なぜ? 】～

本年度最後のテストが終わりました。今週から解答用紙が返却されていますので、今日あたり全教科の点数が判明しているはずですが。

職員室で先生方に「テストの出来はどうでしたか?」と聞くと、たいてい「うーん、あまり勉強していませんね。」という答えが返ってきます。

「何? 1月29日から部活動は停止になっているので、その気になったらいつもの3倍以上の勉強ができるはずだが?」と思います。

保護者の皆様、子どもさんの取り組みはどうでしたか?これだけ時間的にゆとりがあって、それにもかかわらず試験対策がおろそかになっているっていうことは・・・。」それ以上書きません。書けません。

各ご家庭でしっかり子どもさんと「生き方」についてお話し合いをお願いします。鉄は熱いうちに打て。若い時の苦勞は買ってませよ、です。

